



平成19年度 事業報告書

学校法人 大谷学園

住所 大阪市阿倍野区共立通2丁目8番4号

電話 06-6661-0381

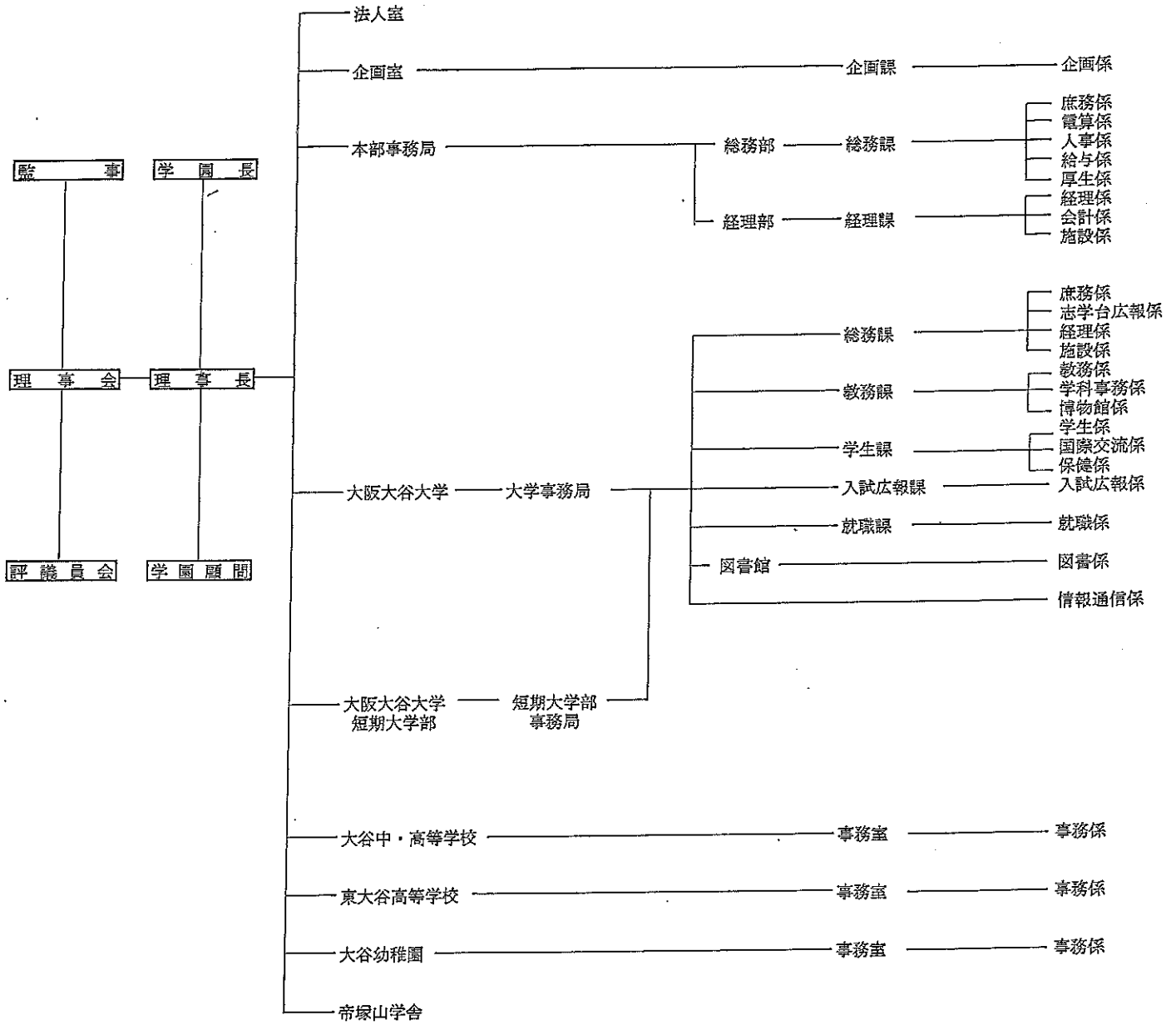
I 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人 大谷学園
2. 所在地 〒545-0041
大阪市阿倍野区共立通二丁目8番4号
電話06-6661-0381(代表)
3. 設立 昭和5年4月2日
4. 法人の沿革及び組織

(1) 法人の沿革

年	沿革
明治42年	大谷裁縫女学校を設立
明治44年	大谷女学校と改称
大正13年	大谷高等女学校を設立
昭和5年	大谷女子専門学校を設立 財団法人大谷学園となる
昭和11年	大谷女学校を第二大谷高等女学校と改称
昭和23年	学制改革により、大谷高等女学校は大谷高等学校・大谷中学校に、 第二大谷高等女学校は、東大谷高等学校・東大谷中学校となる
昭和25年	学制改革により、大谷女子専門学校は、大谷女子短期大学となる
昭和26年	財団法人大谷学園は、学校法人大谷学園となる
昭和41年	大谷女子大学を設立
昭和44年	大谷幼稚園を設立
昭和50年	大谷女子大学に大学院文学研究科の修士課程を設置する
昭和51年	東大谷中学校廃校となる
昭和53年	大谷女子大学に大学院文学研究科の博士課程を設置する
昭和58年	大谷女子短期大学を大谷女子大学隣接地に移転する
平成元年	大谷女子短期大学被服学科を生活文化学科に名称変更
平成4年	大谷女子短期大学に国際文化学科を設置する
平成12年	大谷女子大学文学部に文化財学科及びコミュニティ関係学科を設置 国文学科、英文学科、幼児教育学科をそれぞれ日本語日本文学科 英語英米文学科、教育福祉学科に名称変更
平成13年	大谷女子短期大学家政学科、英語英文学科をそれぞれ生活科学科 海外コミュニケーション学科に名称変更
平成14年	大谷女子短期大学国際文化学科を廃止する
平成16年	大谷女子大学に教育福祉学部を設置する
平成17年	大谷女子大学に人間社会学部を設置する 大谷女子大学文学部英語英米文学科を英米語学科に名称変更 大谷女子短期大学を大谷女子大学短期大学部に名称変更 大谷女子大学短期大学部に生活創造学科を設置する 大谷女子大学の薬学部が認可される
平成18年	大谷女子大学を大阪大谷大学に名称変更 大谷女子大学短期大学部を大阪大谷大学短期大学部に名称変更 大阪大谷大学に薬学部を設置する 大阪大谷大学、同短期大学部が共学となる

(2) 法人の事務組織



(3) 設置する学校の名称及び所在地

名 称	所 在 地
大阪大谷大学 大学院 文学部 教育福祉学部 人間社会学部 薬学部	〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11-1
大阪大谷大学短期大学部 生活創造学科	〒584-8522 大阪府富田林市錦織北3丁目11-31
大谷高等学校 大谷中学校	〒545-0041 大阪市阿倍野区共立通二丁目8番4号
東大谷高等学校	〒545-0041 大阪市阿倍野区共立通二丁目8番4号
大谷幼稚園	〒584-0073 大阪府富田林市寺池台2丁目11-14

(4) 設置する学校・学部・学科等の入学定員及び収容定員

(平成19年5月1日現在)

名 称	入学定員	収容定員
大阪大谷大学 大学院 文学研究科	24	56
文学部 日本語日本文学科	50	220
英米語学科	50	220
文化財学科	50	200
コミュニティ関係学科	0	50
教育福祉学部 教育福祉学科	240	960
人間社会学部 人間社会学科	120	360
薬学部 薬学科	140	280
大阪大谷大学短期大学部 生活創造学科	180	340
大谷高等学校	336	1,008
東大谷高等学校	576	1,728
大谷中学校	336	1,008
大谷幼稚園	85	400
合 計	2,187	6,830

(注1) 文学部日本語日本文学科、英米語学科は、平成15年度及び平成17年度に入学定員を変更
 文学部コミュニティ関係学科は平成17年度より募集停止
 教育福祉学部は平成16年度に開設した学部で、平成19年度完成
 人間社会学部は平成17年度に開設した学部で平成20年度完成
 薬学部は平成18年度に開設した学部で平成23年度完成
 生活創造学科は、19年度に募集定員を20名増員し、180名とした

(5) 役員の名

(平成20年3月31日現在)

役 職	職 名	氏 名	備 考
理事	理事長	左藤 恵	
理事		大西 正文	
理事		西端 春枝	
理事		窪田 譲	
理事	副理事長	左藤 一義	
理事	常務理事	山口 義孝	
理事		中村 晃	
理事		加地 伸行	
理事		草場 宗春	大阪大谷大学・同短期大学部学長
理事		辻井 昭雄	
監事		辻中 栄世	
監事		山本 恵子	
監事		小西 順子	

(6) 学生生徒園児及び教職員数

(平成19年5月1日現在)

学 校	学生生徒数	教職員数
法人本部		26
大阪大谷大学	2,731	170
大阪大谷大学短期大学部	418	28
大谷高等学校	891	53
東大谷高等学校	860	64
大谷中学校	1,037	57
大谷幼稚園	118	9
計	6,055	407

II 事業の概要

1. 平成19年度の概況

<大学>

- (1) 本学が実施した抜本的改革(男女共学・薬学部設置等)の定着を図ることとし、入学学生の確保に努めた。なお、平成20年度の全学部合計の入学者数は766名となった。薬学部においては、2年次のカリキュラム(講義及び実習)を履行したほか、前年度に引き続き早期体験学習を実施したほか、新たに薬学共用試験の実施に向けたトライアルを実施するなど、薬学共用試験の実施準備に取り組んだ。
- (2) 学生に対する教養教育・専門教育に係るカリキュラムの見直しやスキルアップセミナー(薬学部)を実施するなど、その充実に取り組んだ。教育内容や教育方法の改善への組織的な取り組み(FD)としては、「ビデオ撮影による授業評価」を実施した。さらに、自己点検・評価委員会の下に「FD部会」を設置し、「学生による授業評価アンケート」を実施した。また、就職ガイダンス、就職対策講座等を計画的、継続的に実施し、就職支援の一層の充実に取り組んだ。さらに、特別研究費の活用などを通じて教員の研究活動の奨励に努めた。
- (3) 平成21年度に受審予定の「認証評価」の準備を推進するため、認証評価の領域ごとの責任者などの担当教職員の分担を決定し、自己点検活動に着手した。なお、認証評価に関するセミナーを開催し、本学教職員の認証評価に関する共通認識を図った。

<短期大学部>

- (1) 平成20年度の入学者数は166名となった。平成19年度においては、在学2年間における4つのコース(領域)に係るカリキュラム(講義及び実習)を着実に履行したほか、キャリアアップ教育の推進に努めるなど、教育活動の充実に取り組んだ。
教育内容や教育方法の改善への組織的な取り組み(FD)としては、「教員・学生による相互評価」や「学生による授業評価アンケート」・「卒業生に関するアンケート調査」などを実施した。また、就職ガイダンス、就職対策講座等を計画的、継続的に実施し、就職支援の一層の充実に取り組んだ。
- (2) 平成20年度に受審予定の「第三者評価」に向けて、短期大学部の「自己点検・評価委員会」の下に「第三者評価に関する実務委員会」を設置し、領域ごとに教員と事務局職員とが協力して精力的に自己点検・評価活動を実行した。また、教職員を対象として第三者評価実務に係るセミナーを開催して本格的な自己点検・評価活動に資することとし、評価報告書の作成に取り組んだ。

<大谷中学・高校>

- (1) 報恩感謝の心と精神の宗教的情操教育を不変の教育基盤とし、学力向上努力を大きな柱に、その基盤と柱を覆うものが生活指導である。という共通認識のもとに教育活動を実施した。「優しい人」「賢い人」「美しい人」を育みたい。
- (2) 医進・特進理系の医学部等難関理系学部、及び文型特文クラス等の難関校受験指導に対応しうる教員対策が今後とも引き続き重要課題である。
- (3) 英語コース1期生がオーストラリアに1名、ニュージーランドに14名が19年度3学期から20年度2学期末まで留学している。
- (4) 特進コースクラス数の増加による学力差対策を校長諮問委員会で検討した結果、高等学校で2グループの習熟度別クラス編成を実施することにした。なおこのクラス編成は中学校入学前に公示する必要があるので20年度中の中学募集活動から公示説明し、21年度中学入学生の高校進級時からの実施となる。20年度の中学校在籍生は移行措置として学年毎に対応する。

<東大谷高校>

- (1) 宗教の授業に加え、講堂朝礼、教室での朝礼・終礼、お花祭り、報恩講等の行事の中で報恩感謝の念を養い、宗教的情操教育を行なっている。また、常日頃の生活指導はもちろんのこと、毎月1回の頭髪・服装検査、校門での指導により、躰教育を実践している。
- (2) 特別進学コースでは、放課後の補習、長期休暇中の特別編成授業により、きめ細かい学習指導を行っている。また、成績上位者で「国公立クラス」を編成し、国公立対策のための特別補習を行い、進学実績の向上を目指している。19年度までのカリキュラムは36単位であったが、20年度より38単位になり、平日は木曜をのぞき、授業は7時間目まであり、3年生はその後、補習を行っている。19年度の卒業生は大阪市立大学に1名、大阪府立大学に3名、大阪教育大学に3名、和歌山大学に1名、国公立大学に合計9名合格しており、前年度の6名を上回っている。関関同立へ65名、産近甲龍に99名合格し、いずれも前年度を上回る進学実績を残している。
国際文化(英語進学)コースでは実践的な英語の学力向上のため、1年生でサマーセミナー、2年生でオーストラリアでの2週間の語学研修を行い、また、英検2級取得、TOEICの点数を向上させるため、補習をおこなっている。進路は関西外国語大学、京都外国語大学等、外国語系の大学に多数合格している。
総合(進学)コースでは、希望者補習を行い、大阪大谷大学への学内推薦、指定校推薦を中心に進学しているが、医療系の専門学校へも多数進学している。
- (3) 教員の資質向上のため、自己申告書を提出させ、目標、実施結果、反省点等の確認に努めた。また、申告書を元にヒアリングを行い、教科指導の向上を図っている。

<幼稚園>

- (1) 平成19年度における事業については、幼時期の人格形成のための極めて重要な時期に、宗教的情操の涵養を通して園児個々の正しい生活習慣の体得を目指してきた。その結果、平素の保育活動をとおして、
 - 1 日々の礼拝の実践
 - 2 多様な保育カリキュラムの弾力的な適用
 - 3 自由保育での園児の自発性と創造性の高揚
 - 4 学園の教育的理念の柱である報恩感謝の心の醸成
 - 5 思いやりの心の育成
 - 6 正しい生活習慣、生活態度の育成
 - 7 外国の幼稚園2園との姉妹提携の結果に基づく園児の国際感覚の高揚に励んできたことにより、長期的に、園に対する社会的評価の高まりが見られ、更なる強い期待が寄せられている。平成20年度の大谷学園の創立100周年を契機として、一層の飛躍を確信するところである。

<法人>

- (1) 昨年度に新設した大学薬学部は、13名の教員を招聘し43名の教員体制となり、在学生も新入学生145名を加え298名となりました。学園の平成19年5月1日現在の設置学校全校の在籍者総数は、昨年度の5,835名に比べ220名増加の6,055名となりました。目標である薬学部の完成年度の6,500人規模に向かい、順調に推移しています。100周年記念募金は平成20年3月末で終わることになりましたが、目標額の3億円を達成することが出来ました。また使途については、奨学金事業へ2億円が割り振られ、懸案でありました奨学金の充実が図られることになりましたこの奨学金の学生・生徒への適用は平成21年度からとなります。
- (2) 学園の財政状況を総括的に見てみますと、収入の基盤であります学生生徒等納付金は54億8,100万円となり、前年度の51億1,600万円を3億6,500万円上回りました。これは、薬学部の新入生を含め学生生徒数の増加によります。一方、支出の主項目であります人件費は、薬学部の採用教員13名を含め、50億7,700万円、となり、前年度の47億4,600万円に対し3億3,100万円増加いたしました。

次に、施設設備関係経費であります。特に、薬学部設置認可に係る設置経費であります機械器具に対する平成19年度の支払(1億円)も終わり、設置経費の支払は完了となりました。施設関係支出は、大学本館南棟のエアコンの更新工事(約7,500万円)を行ないました。また、共学化に伴う校舎の改修(トイレ改修等)も平成19年度の計画通り完了いたしました。この結果、帰属収支差額は約2,600万円の収入超過となりましたが、まだ、薬学部の在學生は2年生まででありますので、順調に推移しているものと考えています。

消費収支差額は、薬学部の設備の購入、共学化の為の改修費に自己資金を投入いたしましたこと、また、借入金の返済、また、本年度の基本金組入には、100周年募金から奨学金事業への割り当て分を基金とし、基本金に組入れを行なったこともあり、5億4,900万円の支出超過となり、翌年度繰越消費支出超過額は104億1,700万円となり、依然として、厳しい状況にあります。

2. 主要施策の概要

前述の概況を背景として、平成19年度に行なった学園の主な事業概要は、次のとおりであります。

- (1) 大谷学園100周年記念募金活動の継続。
- (2) 大阪大谷大学の共学化のための校舎の改修。
- (3) 大阪大谷大学の設備の更新。
- (4) 大谷学園100周年記念事業実行委員会の設置。
- (5) 奨学基金、国際交流基金の増額。

3. 財務指数の状況

人件費比率は、薬学部の教員採用もありましたが、1.1ポイント改善いたしました。

教育研究経費比率は、前年度の特殊事情がなくなりましたので2.2ポイント減少しております。

	平成19年度	平成18年度	前年度比
人件費比率 (対帰属収入比率)	66.3%	67.4%	-1.1%
人件費依存比率 (対学生生徒等納付金比率)	91.4%	92.4%	-1.0%
教育研究経費比率 (対帰属収入比率)	25.5%	27.7%	-2.2%
管理経費比率 (対帰属収入比率)	6.4%	6.6%	-0.2%

4 校舎建築関係の概要

平成19年度に行なった施設設備工事の概要は以下のとおりであります。

- (1) 大阪大谷大学本館南棟エアコン更新工事
ガスヒートポンプエアコンに更新工事
施工:大成温調(株)
着工:平成19年2月1日
完成:平成19年4月6日
総工費:74,400,491円
- (2) 大阪大谷大学本館西棟1F・別館2Fトイレ改修工事
共学化に伴う改修工事
設計監理:(株)小西設計
施工:(株)竹中工務店
着工:平成19年2月5日
完成:平成19年4月10日
総工費:8,186,639円
- (3) 大谷幼稚園トイレ改修工事
老朽化に伴う更新工事
施工:(株)鴻池組
着工:平成19年3月8日
完成:平成19年4月6日
総工費:8,826,553円

(4) 大谷中学・高校落下事故対策工事

手摺の嵩上げ工事

施 工: 東急建設(株)
着 工: 平成19年8月7日
完 成: 平成19年8月7日
総工費: 2,928,721円

(5) 大阪大谷大学別館テラス屋根改修工事

手摺の嵩上げ工事

施 工: 東急建設(株)
着 工: 平成19年8月9日
完 成: 平成19年8月31日
総工費: 4,006,897円

(6) 阿倍野台給品部改修工事

手摺の嵩上げ工事

施 工: 東急建設(株)
着 工: 平成19年8月4日
完 成: 平成19年8月21日
総工費: 2,434,702円

(7) 大阪大谷大学薬学部実験棟瑕疵検査に伴う追加工事

手摺の嵩上げ工事

施 工: (株)竹中工務店
着 工: 平成19年8月8日
完 成: 平成19年8月31日
総工費: 1,932,059円

(8) 大阪大谷大学苗休憩室カーペット張替え工事

手摺の嵩上げ工事

施 工: (株)竹中工務店
着 工: 平成19年8月31日
完 成: 平成19年9月10日
総工費: 1,290,880円

Ⅲ 学園財務の概要 (平成20年3月期)

1. 資金収支計算の概要

- (1) 平成18年度の繰越支払い資金30億4,200万円を含めた資金収入合計は、116億9,900万円(前年度比5億2,300万円減)となり、当年度資金支出合計89億7,600万円(前年度比2億400万円減)を控除した平成20年度への繰越支払い資金は27億2,300万円となり、前年度より3億1,900万円の減少となりました。
- (2) 資金収入の主な内訳を前年度対比で見えますと、学生生徒等納付金は、在籍者数が増加した事により、3億6,500万円の増加となりました。
手数料収入は、薬学部の志願者が減少となったこと、及び既設の学校・学部・学科においても志願者数が減少いたしましたので、2,100万円の減収となりました。
そのほか資産運用収入が伸び5,700万円の増加、また退職者に係る退職金財団からの交付金が、1億2,700万円増加しております。
- (3) 資金支出の主な内訳を前年度対比で見えますと、人件費は3億3,100万円の増加、教育研究経費で3,100万円の減少、管理経費で1,000万円の増加となりました。
施設関係支出は、大学本館南棟のエアコン更新工事が主なものであります。
設備関係支出は、薬学部設置に係る設置経費1億円を含んでおります。

2. 消費収支計算の概要

- (1) 平成19年度の消費収入の部合計は、69億8,400万円となり、前年度対比9億700万円の増となりました。基本金組入額は5億7,500万円で、3億6,300万円の減少となっております。
- (2) 平成19年度の消費支出の部合計は、75億3,300万円となり、前年度対比3億6,100万円の増となりました。これは薬学部教員の採用に係る人件費増、退職者数の増加(定年退職者含む)に係る退職金の増、及び、有価証券の評価額を計上した事によります。
- (3) 平成19年度の消費収支差額は5億4,900万円の支出超過となりました。また帰属収支差額は2,600万円の収入超過となっております。翌年度へ繰り越します消費支出超過額は104億1,700万円となりました。

3. 貸借対照表の概要

- (1) 平成19年度末の資産総額は、227億5,000万円で前年度末対比5億6,800万円の減少となりました。
- (2) 平成19年度末の負債総額は、48億6,400万円で前年度末対比5億9,400万円の減少となりました。
負債額の総資産に対する比率は21.4%で前年度対比2%減少しております。
- (3) 基本金の部合計は5億7,500万円増加の283億200万円となりました。
- (4) 消費収支差額の部は5億4,900万円増加の104億1,700万円の支出超過となっております。
- (5) 自己資本金は178億8,500万円となり、前年度対比2,600万円の増加となりました。

資金収支計算書

(単位：百万円)

科目	当年度	前年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	5,481	5,116
手数料収入	86	107
寄付金収入	48	138
補助金収入	1,320	1,241
資産運用収入	210	153
資産売却収入	412	693
事業収入	64	59
雑収入	326	175
借入金等収入	0	0
前受金収入	1,064	1,146
その他の収入	1,080	652
資金収入調整勘定	△ 1,434	△ 1,397
前年度繰越支払資金	3,042	4,139
収入の部合計	11,699	12,222

科目	当年度	前年度
支出の部		
人件費支出	5,077	4,746
教育研究経費支出	1,217	1,248
管理経費支出	456	446
借入金等利息支出	16	19
借入金等返済支出	170	170
施設関係支出	110	251
設備関係支出	186	470
資産運用支出	980	1,350
その他の支出	901	889
資金支出調整勘定	△ 136	△ 408
次年度繰越支払資金	2,723	3,042
支出の部合計	11,699	12,222

消費収支計算書

(単位：百万円)

科目	当年度	前年度
消費収入の部		
学生生徒等納付金	5,481	5,116
手数料	86	107
寄付金	70	148
補助金	1,320	1,241
資産運用収入	210	153
資産売却差額	2	15
事業収入	64	59
雑収入	326	175
帰属収入合計	7,559	7,015
基本金組入額合計	△ 575	△ 938
消費収入の部合計	6,984	6,077

科目	当年度	前年度
消費支出の部		
人件費	5,012	4,729
教育研究経費	1,930	1,940
管理経費	481	469
借入金等利息	16	19
資産処分差額	94	16
徴収不能額	1	1
消費支出の部合計	7,533	7,172
当年度消費支出超過額	549	1,095
前年度繰越消費支出超過額	9,868	8,772
翌年度繰越消費支出超過額	10,417	9,868

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当年度	前年度
	平成20年3月31日	平成19年3月31日
資産の部		
固定資産	19,281	19,523
有形固定資産	15,632	16,053
土地	2,005	2,005
建物	9,034	9,337
構築物	470	518
教育研究用機器備品	1,618	1,723
その他の機器備品	31	27
図書	2,470	2,437
車輛	5	6
その他の固定資産	3,649	3,470
電話加入権	3	3
施設利用預け金	0	1
有価証券	1,785	1,675
退職給与引当特定資産	1,160	1,160
創立100周年記念事業特定引当資産	50	250
第3号基本金引当資産	582	382
奨学金引当特定資産	70	0
流動資産	3,469	3,795
現金預金	2,723	3,042
未収入金	289	200
有価証券	253	356
前払金	28	31
立替金	2	2
修学旅行費預り資産	174	165
資産の部合計	22,750	23,318
負債の部		
固定負債	3,269	3,503
長期借入金	737	907
退職給与引当金	2,532	2,597
流動負債	1,596	1,955
短期借入金	170	170
未払金	115	393
前受金	1,064	1,146
修学旅行費預り金	174	165
その他の預り金	72	81
負債の部合計	4,864	5,458
基本金の部		
第1号基本金	27,179	26,804
第3号基本金	582	382
第4号基本金	542	542
基本金の部合計	28,302	27,727
消費収支差額の部		
翌年度繰越消費支出超過額	10,417	9,868
消費収支差額の部合計	△ 10,417 △	9,868
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	22,750	23,318